

こむぎ通信

令和5年1号

越冬後の追肥作業の時期です。

消雪後から幼穂形成期までに、窒素成分 2kg/10a を目安に散布してください。
特に、は種が遅く越冬前の生育量が少ないほ場は、確実に追肥を行いましょう。

1 気象状況

(1) は種後の気象状況 (十和田市アメダス)

3月は平年より高温多照傾向で推移しており、ほ場の雪解けが進んでいる。

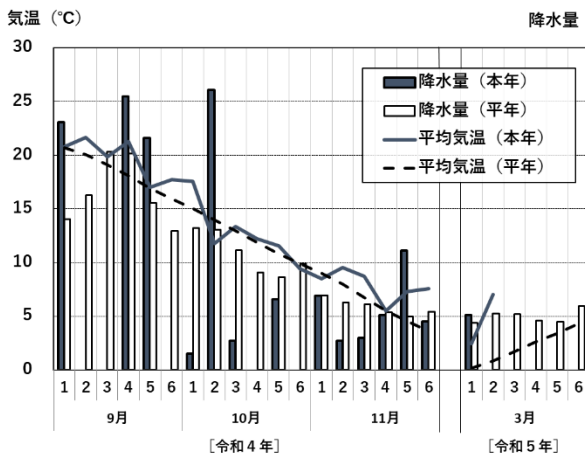


図-1 気温と降水量

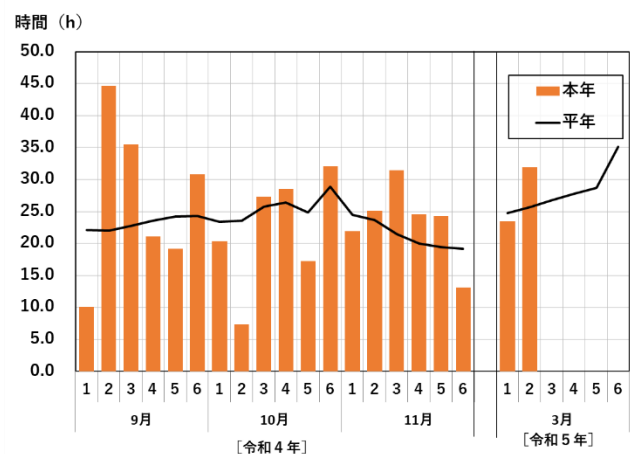


図-2 日照時間

2 消雪後～幼穂形成期の追肥作業

越冬後の生育を促進し茎数を増加させるため、消雪後～幼穂形成期に追肥を行う。ただし、本年は令和5年2月27日以降、高温多照の日が続いており、ほ場の消雪や幼穂形成期の到達日が平年（4月2日頃）より早まる可能性があるため、早めに追肥を開始する。

追肥量は10aあたり窒素成分で2kgを基準とするが、ほ場の地力や茎葉の繁茂状況等を考慮し、越冬前の生育量が旺盛な場合（茎数が1000本/m²を超える場合）は追肥量を加減する。

3 雑草防除

雑草の生育が進むと除草剤が効きにくくなるおそれがあるため、早めに除草剤を散布し、雑草の生育を抑える。

(参考) 越冬後に使用できる薬剤

除草剤名	適用雑草	使用時期	使用方法	10aあたり 使用量 (散布量)
アクチノールB 乳剤	一年生広葉雑草	穂ばらみ期まで（雑草生育初期）	雑草茎葉散布 又は全面散布	100～200 mL (70～100 L)
バサグラン液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	生育期（但し、収穫45日前まで）		100～200 mL (70～100 L)

※農薬を使用する前に必ずラベルを確認し、濃度や使用回数に注意して散布すること。